



アジア大洋州 未来の技術と事業

IHI ASIA PACIFIC PTE. LTD. CEO
桑田 知之

IHI ASIA PACIFIC PTE. LTD. (IHIAP) は、2012 年 5 月に IHI グループのアジア大洋州の地域統括会社として発足しました。それまでは、各事業分野が必要に応じて、各国でオペレーションを行っていましたが、IHIAP 設立後は、財務、人事、法務、ICT などのアドミニストレーションを共通機能として、域内各拠点、および、域内関連会社に提供するとともに、シンガポールを含む域内全体のマーケティングや R&D の機能を担ってきました。加えて、アジア大洋州は、域内がさまざまな国で形成されているため、それぞれの国の文化、経済を考慮して、IHI 本社の方針をアジャストする必要があります。

今後も、グループ経営方針 2019 に沿って IHI 全体最適を考えて、域内に貢献していきます。

直近のアジア大洋州の経済情勢と主要各国で今後展開する事業や技術開発についてご紹介します。

アジア大洋州経済情勢

東南アジア諸国連合 (ASEAN) 主要 6 国の経済成長が鈍化しています。2019 年 1～3 月期の国内総生産 (GDP) 成長率は、物価変動の影響を除いた実質で各国とも前期から伸びが縮小 (対前年同期比は、シンガポール 1.2%、マレーシア 4.5%、タイ 2.8%、インドネシア 5.1%、ベトナム 6.8%、インド 5.8%)。米中貿易摩擦の影響を受けるタイやシンガポールで中国向けの落ち込みが目立っており、特にタイは前期 3.6%から 2.8%と大幅ダウンしました。

2019 年通年では、輸出依存度の高い国を中心に成長が鈍化し、2018 年の実績を下回る見通しですが、中国に代わる輸出拠点としての存在感が増すベトナムは、7%近い成長を維持しており、明暗がはっきり分かれています。

今後の展望

グループ経営方針 2019 の事業領域の事業戦略を受

けた主要各国における取り組み状況を簡単に示します。

シンガポールでは、東南アジアの先進国として、A*STAR（Agency for Science, Technology and Research：科学技術研究庁）傘下の政府機関と、

- (1) ITS（Intelligent Transport Systems：高度道路交通システム）開発
- (2) 複合材製造技術開発
- (3) ARTC（Advanced Remanufacturing and Technology Centre：再製造技術開発センター）との Additive Manufacturing や航空・宇宙分野向け実装を目指す自動化装置の開発
- (4) IIOT（Industrial IOT）技術の産業適用
- (5) メタネーションおよびオレフィン製造技術の開発などの複数のプロジェクトを共同実施中。いずれも東南アジア全体のビジネスモデルを明確に想定し、シンガポールの先進的ショーケースの機能を最大限に活かせるように活動しています。

マレーシアでは、パーム油精製時の残渣である、EFB（空果房）、OPT（パーム廃棄古木）のペレット燃料化、POME（パーム搾油排水）の排水処理技術の開発に取り組んでおり、EFB は商用第 1 号プラント、OPT、POME は実証プラントの運転中です。

インドネシアでは、自社工場（PT Cilegon Fabricators）の保有を武器として、“Make in Indonesia”を実践中です。さらに TIGAR によるバイオマスガス化、世界最大のパーム生産地であることを背景としたパームソリューションの事業化を目指し活動中です。

タイでは、2019 年度から、産業汎用システム機器の海外進出の橋頭堡として、アジアソリューションセンターを発足し、今までの機器売りから、ライフサイクル全体での顧客アプローチを加速します。

ベトナムでは、「ニャットン橋」の建設など道路、橋梁マーケットでの BOT（Build Operate Transfer）、PPP（Public-Private Partnership）案件への参入に向けての体制構築中です。

インドでは、古くから LNG 受入基地としてインフラを支えてきました。現在は、Mumbai trans Harbour link など橋梁の建設を行っています。今後、確実に中国を超える人口ボーナスを享受できるようなエコシステムの構築、さらにはインドを起点としてバン格拉デシュ、パキスタンなど南西アジア、その次のアフリ

カに対する橋頭堡としての参入シナリオを調査中です。

ミャンマーは、メコン地域（CLMVT：カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム、タイ）のなかでは、ベトナムの次と見なされており、現状は社会インフラの整備中でインフラ建設が中心です。日系工業団地が完成し、徐々に産業化が進み出した状況であり、コンクリート製品のスパンパイル（PC 杭）、ガーダー（橋桁）を I&H Engineering Co., Ltd.（I&H）で製造、納入し、実績を積み上げている状態です。

まとめ

最後に、シンガポールで 2019 年 5 月 10 日に ICES（化学工学研究所）と共同でメタネーションのデモサイトをオープンしました。

本デモサイトの発表後、反響の大きさに驚いており、脱 CO₂ のソリューションとして社会から必要とされている技術であることが確信できました。

今後は世界に先駆けて東南アジアのショーケースとしてのシンガポールの機能をうまく利用して、事業を興したいと考えます。まずは、東南アジア最大の化学コンビナートであるシンガポール・ジュロン島で、CO₂ からメタンやオレフィンへ転換するプラントを、関係機関と共同で立ち上げるべく活動しております。

引き続き、皆さまのご指導ご協力をお願い申し上げます。



メタネーションのデモサイト（シンガポール）